

2011（平成23）年度事業報告書

2012年5月

学校法人 京都精華大学

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

本学の建学の理念は、初代学長の岡本清一が本学の前身である京都精華短期大学の設立時に提示した以下の「教育の基本方針に関する覚書」に立脚する。

1. 京都精華短期大学は、人間を尊重し、人間を大切にすることを、その教育の基本理念とする。この理念は日本国憲法および教育基本法を貫き、世界人権宣言の背骨をなすものである。
2. 京都精華短期大学は特定の宗教による教育を行わない。しかし諸宗教の求めてきた真理と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. 学生に対しては、師を敬うことが教えられる。師を敬うことなくして、人格的感化と学問的指導を受けることはできないからである。そして敬師の教育を通じて、父母と隣人とに対する敬愛の心を養う。
4. 教員の学生に対する愛情責任は、親の子に対するそれが無限であるように、無限でなければならない。職員もまた教員に準じて教室外教育の一斑の責任を負う。
5. 学内における学生の自由と自治は尊重され、その精神の涵養がはかれる。従って学生は、学内の秩序と環境の整頓に対して責任を負わなければならない。
6. 礼と言葉の紊れが、新しい時代に向かって正され、品位のない態度と言葉とは、学園から除かれなければならない。
7. かくしてわが京都精華短期大学における教育の一切は、新しい人類史の展開に対して責任を負い、日本と世界に尽くそうとする人間の形成にささげられる。

(2) 学校法人の沿革

年 度	事 項
1968（昭和 43）年	4 月 京都精華短期大学開学（設置者：学校法人京都精華学園）。英語英文科（入学定員 100 名）、美術科（入学者定員 50 名）を開設。
1970（昭和 45）年	4 月 美術科・英語英文科に専攻科開学。美術科・英語英文科入学定員を 150 名に増員。
1979（昭和 54）年	4 月 京都精華大学開学。美術学部造形学科（専門分野は洋画、日本画、立体造形。入学定員 60 名）、美術学部デザイン学科（専門分野はデザイン、染織、マンガ。入学定員 60 名）を設置。 短期大学を短期大学部に名称変更。
1982（昭和 57）年	4 月 京都精華大学短期大学部美術科および美術専攻科を廃止。
1989（平成元）年	4 月 美術学部造形学科に版画分野・陶芸分野を増設。
1987（昭和 62）年	4 月 人文学部人文学科開設（短期大学英語英文科を改組）。
1991（平成 3）年	4 月 京都精華大学大学院開学（美術研究科造形専攻・デザイン専攻）。 6 月 京都精華大学短期大学部廃止。

年 度	事 項
1993（平成 5）年	4 月 大学院人文学研究科開設。 12 月 学校法人木野学園の設置。
2000（平成 12）年	3 月 ISO14001 認証取得。 4 月 人文学部環境社会学科、芸術学部マンガ学科（ストーリーマンガコース、カートゥーンマンガコース）開設。 美術学部を芸術学部、大学院美術研究科を芸術研究科に名称を変更。
2001（平成 13）年	7 月 京都精華大学表現研究機構開設。
2003（平成 15）年	4 月 学校法人名を「学校法人木野学園」から「学校法人京都精華大学」に変更。 人文学部人文学科を改組再編し、社会メディア学科・文化表現学科を設置。 大学院芸術研究科に芸術専攻博士後期課程を設置。
2006（平成 18）年	4 月 デザイン学部・マンガ学部を新設。デザイン学部にはビジュアルデザイン学科・プロダクトデザイン学科・建築学科を、マンガ学部にはマンガ学科・マンガプロデュース学科・アニメーション学科を開設。 芸術学部には造形学科に加え、素材表現学科・メディア造形学科を開設。 11 月 烏丸御池に京都国際マンガミュージアムを開設（京都市との共同事業）。
2008（平成 20）年	4 月 学校法人インターナショナル学園（専修学校京都インターアクト美術学校設置者）と合併。
2009（平成 21）年	4 月 人文学部環境社会学科・社会メディア学科・文化表現学科を改組再編し、総合人文学科を開設。 3 月 京都インターアクト美術学校を廃止。
2010（平成 22）年	4 月 大学院にデザイン研究科・マンガ研究科を新設。 8 月 四条烏丸に産学連携サテライトスペース kara-S を開設。

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校：京都精華大学

2012（平成24）年3月31日現在

	学部・研究科	学 科	開設年	摘要
学 部	芸術学部	造 形 学 科	1979（昭和54）年	
		素 材 表 現 学 科	2006（平成18）年	
		メテ`ィア造形学科	2006（平成18）年	
		デ ザ イ ン 学 科	2000（平成12）年	2006（平成18）年4月募集停止
	デザイン学部	ビジュアルデザイン学科	2006（平成18）年	
		プロダクトデザイン学科	2006（平成18）年	
		建 築 学 科	2006（平成18）年	
	マンガ学部	マ ン ガ 学 科	2006（平成18）年	
		マンガプロデュース学科	2006（平成18）年	
		アニメーション学科	2006（平成18）年	
	人文学部	社会メテ`ィア学科	2003（平成15）年	2009（平成21）年4月募集停止
		文化表現学科	2003（平成15）年	2009（平成21）年4月募集停止
		環 境 社 会 学 科	2000（平成12）年	2009（平成21）年4月募集停止
総 合 人 文 学 科		2009（平成21）年		
大 学 院	芸術研究科	博 士 前 期 課 程	1991（平成3）年	
		博 士 後 期 課 程	2003（平成15）年	
	人文学研究科	修 士 課 程	1993（平成5）年	
	デザイン研究科	修 士 課 程	2010（平成22）年	
	マンガ研究科	修 士 課 程	2010（平成22）年	

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

設置する学校：京都精華大学

2011（平成23）年5月1日現在（単位：人）

学部・研究科	学科・専攻	入学定員数	収容定員数	現員数	摘要	
芸術学部	デザイン学科	—	—	1	2006（平成18）年4月募集停止	
	造形学科	112	448	458		
	素材表現学科	64	256	227		
	メディア造形学科	64	256	268		
	計	240	960	954		
デザイン学部	ビジュアルデザイン学科	96	384	416		
	プロダクトデザイン学科	64	256	225		
	建築学科	48	192	156		
	計	208	832	797		
マンガ学部	マンガ学科	96	384	410		
	マンガプロデュース学科	40	160	162		
	アニメーション学科	64	256	267		
	計	200	800	839		
人文学部	環境社会学科	—	276	79	2009（平成21）年4月募集停止	
	社会メディア学科	—	373	137	2009（平成21）年4月募集停止	
	文化表現学科	—	333	180	2009（平成21）年4月募集停止	
	総合人文学科	450	1,800	901		
	計	450	2,782	1,297		
学部合計		1,098	5,374	3,887		
芸術研究科	芸術専攻	博士前期課程	20	40	51	
		博士後期課程	5	15	15	
	計	25	55	66		
デザイン研究科	デザイン専攻	修士課程	10	20	12	
	建築専攻		5	10	7	
	計	15	30	19		
マンガ研究科	マンガ専攻	修士課程	20	40	33	
人文学研究科	人文学専攻	修士課程	10	20	13	
大学院計		70	145	131		
総合計		1,168	5,519	4,018		

(5) 就職等の状況

・就職実績

2012（平成24）年5月1日現在

学部	就職者数	進学者数	主な内定・進学先
芸術学部	84	36	【製造・商社】満月 リクロー(菓子) 東洋ケース(美装ケース) 岡伸(靴下) 八木研(現代仏壇) シバハラ(椅子) 明和グラビア(インテリア) アートディンク(ゲーム) 京楽 織匠小平 梅田レース 黒川ダイドウ(染色・織物製造) 三彩 益子焼窯元よこやま(陶器) エーキャンビーインターナショナル アッシュ・ペー・フランス(アパレル) 【広告印刷デザイン】日本ビジネスアート 東精版印刷 小松総合印刷 【IT・Web】Web Wave 【映像・アニメーション】ガイナックス LICA スノードロップ 【その他サービス】たつた舞台(大道具) 【公務】刑務官 【フリーランス】マンガ家アシスタント デザイナー他 【教職】大阪市中学校教員 京都芸術高校(常勤) 開智中学・高校 【進学】京都精華大学院 京都市立芸術大学院 東北芸工大学院 京都府陶工高等専門学校 京都市産業技術研究所 東京女子大学研究生他
デザイン学部	84	4	【住宅・建設】セキスイハイム東海 大和ハウス工業 古河林業 三和建設 【製造・商社】牧製作所 ローゼン(洋菓子) イマグループ ワールドパーティーイデア(玩具 雑貨) ヨウジヤマモト インザグループ 宇仁繊維(アパレル) ニューロンエイジ(ゲーム) 【広告】大阪宣伝研究所 グッドデザインカンパニー ザ・マンズームデザイン バロック 【印刷】大阪シーリング印刷 小倉美術印刷 レトロ印刷 JAM*院生 【映像・アニメーション】ピラミッドフィルム*院生 JETSTUDIO スタジオワンパック 【IT・Web】ワントゥーテンデザイン ケイツー エクザム リトルスタジオインク 【ディスプレイ】スペース 七彩 吉忠マネキン*院生 【デザイン事務所等】デブロインターナショナルアソシエイツ 出口禎アトリエ 【公務】滋賀県湖南地域消防局 【フリーランス】イラストレーター、デザイナー、Web 製作者他 【進学】京都精華大学院 京都造形芸術大学院他
マンガ学部	49	5	【製造】カプコン 任天堂*院生 AQ インタラクティブ アートムーヴ(ゲーム) クロスカンパニー(アパレル) 【出版・編集】カワイオフィス あかがね 【流通】ビックカメラ エービーシーマート【アニメーション】A-1 ピクチャーズ アニタス神戸 トマソン ディオメディア 【メディア・マスコミ】メディアネットワーク クリークアンドリバー社 【教育】チモロ 【文化】須賀市文化振興事業団*院生 【フリーランス】マンガ家 マンガ家アシスタント イラストレーター他 【教職】帝塚山学院中学高校 【進学】京都精華大学院 東京藝術大学大学院他
人文学部	115	16	【製造・商社】満月 伊藤久右衛門 千代田テクノル マエダ薬品商事 ユナイテッドアローズ オンリー シティーヒル 宇仁繊維 武田機械 近畿中四国ペブシコーラ販売 【流通】イズミヤ ハートフレンド さとう キリン堂 フタバ東海 三菱自動車 【IT・Web】東芝テックソリューションズ 【メディア・エンタテイメント】日邦 A1 ピクチャーズ 【ホテル旅行】海月館 コミュニケーションツアーズ 【その他サービス】アイデム 鳥取いなば農協 日吉町森林組合 【公務】兵庫県警察 三重県多毛郡大台町 【福祉】ロングライフホールディングス 特別養護老人ホームひまわりの家 【進学】京都精華大学院 東京学芸大学院他
計	332	61	

・クリエイターとしての社会的実績

京展 入選/高知県展 入選/全関西美術展 入選/日展 入選/富山県 黒部市 美術展 市展大賞/第37回京都春季創画展 入選/池田泉州銀行カレンダー公募 最優秀作/公募展「鯖江市美術展」入選/アジア現代陶芸展 弘益大学校現代美術館/第9回国際陶磁器展 美濃/阪急西宮女流作家陶芸展出品/トーキョーワンダーウォール 2011 入選/京都文化博物館 工芸ビエンナーレ 2012 入選/第48回毎日広告デザイン賞 学生賞/第176回ザ・チョイス 準入選 中村佑介選/第12回ノート展 審査員賞 荒井良二選/京都の景観にふさわしいサインデザインコンペ 優秀賞/毎日 DAS 学生デザイン展示会 インダストリアル部門賞/アイリス生活用品デザインコンクール 学生奨励賞 受賞/東京デザイナーズウィーク学校賞/Tokyo Midtown Award2010 「on the dreen」/OSCD 作品展 努力賞と奨励賞 受賞/Be-izm3 (ファッションショー) ステージ 優勝 チーム代表で衣装提出/京都書房出版の教育本の挿絵/週刊少年マガジン 9月期 MGP 奨励賞/花とゆめ HMC4 位入賞/りぼん もうひと息賞/クッキー、マーガレット 8位入賞/ヤングガンガン 審査委員特別賞/アックスマンガ新人賞/スピリッツ賞 奨励賞/スピリッツ賞 佳作/月刊少年サンデー 月例賞 佳作/講談社「Kiss」第8回新人漫画賞「kiss IN」ブロンズ賞受賞/小学館新人コミック大賞 入選/月刊少年サンデーに読切掲載/読書感想画コンクール和歌山県で最優秀、全国で奨励賞を2回受賞/大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ参加/ワコール Webマンガ制作/京都三条ロイヤルホテル&スパ パンフレットマンガ制作/ホスピタルアートボランティア壁画原画制作/他

(6) 役員の概要

2012（平成24）年3月31日現在
定員数：理事8人～10人、監事2人～3人

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	摘 要
理事長	赤坂 博	常 勤	2002年12月～2005年12月専務理事、常務理事（総務担当） 2005年12月～2008年12月専務理事、常務理事（企画担当） 2008年12月理事長就任
学 長	坪内 成晃	常 勤	2009年3月～2010年5月常務理事（学生担当） 2010年5月学長就任
専務理事	上々手 良夫	常 勤	2005年12月～2008年12月常務理事（総務担当） 2008年12月専務理事就任
常務理事	武田 恵司	常 勤	2011年12月常務理事（学生担当）就任
常務理事	新井 清一	常 勤	2011年12月常務理事（教学担当）就任
常務理事	関口 正春	常 勤	2011年12月常務理事（企画担当）就任
理 事	杉本 貞彦	非常勤	2001年5月理事就任
理 事	高瀬 哲	非常勤	2011年12月理事就任（㈱葵プロモーション相談役）
理 事	尾池 和夫	非常勤	2008年12月理事就任（財団法人国際高等研究所所長）
理 事	安村 幸駿	非常勤	2008年12月理事就任（㈱京都銀行特別顧問）
監 事	崎間 昌一郎	非常勤	1996年12月監事就任（京都総合法律事務所弁護士）
監 事	位ノ花 俊明	非常勤	2007年5月監事就任
監 事	堂山 道生	非常勤	2002年12月～2008年12月評議員 2008年12月監事就任（株式会社システムディ代表取締役会長）

(7) 評議員の概要

2012（平成24）年3月31日現在
定員数 21人～23人

氏名	主な現職等
赤坂 博	学校法人京都精華大学理事長
坪内 成晃	京都精華大学学長
武田 恵司	学校法人京都精華大学常務理事、京都精華大学副学長（学生担当）
新井 清一	学校法人京都精華大学常務理事、京都精華大学副学長（教学担当）
上々手 良夫	学校法人京都精華大学専務理事、常務理事（総務担当）兼務
関口 正春	学校法人京都精華大学常務理事（企画担当）、京都精華大学企画室長
堤 邦彦	京都精華大学人文学部長
竹宮 恵子	京都精華大学マンガ学部長
松本 英夫	京都精華大学芸術学部長
池垣 禎彦	京都精華大学芸術学部教授、入学部長
石田 涼	学校法人京都精華大学入試広報部長
福岡 正藏	京都精華大学学長室長
杉浦 章介	有限会社杉浦熔接 代表取締役社長
谷 眞美子	英語教室キッズクラブ代表、同窓会木野会会長
三村 一郎	株式会社三國屋 代表取締役社長
稲垣 秀樹	元天理高等学校 教諭
上村 多恵子	京南倉庫株式会社 取締役社長
河村 純子	河村能舞台
栗山 裕子	建築家、NPO 法人古材バンクの会副会長
高木 太郎	ニューカラー写真印刷株式会社 代表取締役社長
寺本 義明	京都市南図書館長
畑 正高	株式会社松榮堂 代表取締役社長
中西 恵一	敦賀市常宮小学校校長、京都精華大学教育後援会会長

(8) 教職員の概要

2011（平成23）年5月1日現在（単位：人）

区 分	所 属	計
教育職員 (嘱託助手含む)	芸術学部	43
	デザイン学部	39
	マンガ学部	45
	人文学部	42
	共通教育センター	21
	キャリアデザインセンター	2
	計	192
事務職員 (理事、嘱託事務職員・契約事務職員含む)	法人部門	2
	大学部門	98
	計	100
合 計		292

平均年齢は教員 48.0 才、職員 39.3 才 [2011（平成23）年5月1日現在]

(9) 施設等の状況

(1) 現有施設設備の所在地等の説明

校地面積（2012（平成24）年3月31日現在） 239,938.74 m²

（自己所有校地：237,164.89 m²、借用校地：2,773.85 m²）

校舎面積（2012（平成24）年3月31日現在） 68,728.31 m²

(2) 主な施設設備の取得又は処分計画及びその進捗状況

・教職員住宅除却

種類：共同住宅（旧教職員住宅）

面積：[A棟] 1F100.05 m²、2F100.05 m²、3F100.05 m² 合計 300.15 m²

[B棟] 1F100.32 m²、2F100.32 m²、3F100.32 m² 合計 300.96 m²

理由：老朽化

取壊年月：2011（平成23）年7月30日

・静思寮除却

種類：共同住宅（1日学生寮）

面積：1F 289.69 m²、2F244.98 m² 合計 534.67 m²

理由：老朽化

取壊年月：2011（平成23）年7月25日

・幡枝寮除却

種類：共同住宅（旧学生寮）

面積：1F 192.78 m²、2F189.54 m² 合計 382.32 m²

理由：老朽化

取壊年月：2011（平成 23）年 7 月 26 日

2. 事業の概要

1. 教育に関する事業

・大学院マンガ研究科博士課程の設置準備

国内外から注目を集める本学のマンガ教育研究活動において、世界トップレベルの教育研究体制を確立するために、修士課程の完成年度である 2012 年度に向け、大学院マンガ研究科博士課程の設置届出を行った。2012（平成 24）年 4 月の開設にて、修業年限は 3 年、入学定員は 4 名、収容定員は 12 名とした。

・新学部等の設置準備

「表現の大学」としての特色を強化する目的で、5 番目の学部となるポピュラーカルチャー学部の設置届出の準備を行った。マンガ学部やマンガ研究科にて培ったポピュラーカルチャー領域の教育と研究の手法や成果を基礎として、新たに音楽とファッション領域の教育研究を推進する体制を整備することで、今後更に成長が期待されるコンテンツ産業界で活躍する人材（創り手と送り手・届け手）を育成する計画である。この学部はポピュラーカルチャー学科にて構成され、入学定員 118 名、収容定員 472 名の学部として、2013（平成 25）年 4 月の開設を予定し、音楽とファッションの 2 コースで学生募集を行い、2 つの専門領域の教育研究を行うこととなる。

デザイン学部にも新たな学科として、イラスト学科を開設するための設置届出の準備を行った。学科開設の目的は、イラスト領域の志願者層が年々増加していると同時に、志願者層の多くが求めている幅の広い描画教育に対応する体制を整備する点、産業界で強く求められている新たな表現領域をきりひらく人材を育成するための専門教育を強化する体制を整備する点にある。このため、ビジュアルデザイン学科のイラストレーションコースを基礎として、入学定員 64 名、収容定員 256 名の学科として、2013（平成 25）年 4 月の開設を予定するものである。

上述のポピュラーカルチャー学部とデザイン学部イラスト学科の設置届出は、2012（平成 24）年 4 月中に行う予定である。

マンガ学部でも、産業全体を支える人材育成を更に進化させる目的で、学部再編の準備を進めた。マンガ学科にギャグマンガコースとキャラクターデザインコースを新設し、マンガプロデュース学科を学科からコースに改めてマンガ学科に配置する予定である。この再編に伴いマンガ学科の入学定員は 168 名、収容定員は 672 名に増加となり、マンガ学部全体の入学定員は 232 名、収容定員は 928 名に増加する。この再編の手続きは、ポピュラーカルチャー学部とイラスト学科の設置届出書に併記すると同時に学則変更届出を行うこととし、新体制での教学は 2013（平成 25）年 4 月に開始するものとする。

・入学定員の変更準備

ポピュラーカルチャー学部（入学定員 118 名／収容定員 472 名）とマンガ学科（入学定員 168 名にて純増人数 32 名／収容定員 672 名にて純増人数 128 名）の入学定員（118 名+32 名=150 名）と収容定員（472 名+128 名=600 名）は、人文学部総合人文学科の定員変更分（入学定員 450 名から 300 名へ 150 名減／収容定員 1,800 名から 1,200 名へ 600 名減）の移項で設定することとし、大学全体の入学定員と収容定員の変更は行わない。

イラスト学科の定員（入学定員 64 名／收容定員 256 名）は、ビジュアルデザイン学科とプロダクトデザイン学科と建築学科の定員変更分の移項で設定することとして、デザイン学部全体の定員（入学定員 208 名／收容定員 832 名）の変更はない。具体的な各学科の定員設定は、ビジュアルデザイン学科は入学定員 64 名／收容定員 256 名、プロダクトデザイン学科は入学定員 48 名／收容定員 192 名、建築学科入学定員 32 名／收容定員 128 名となる。

2. 研究に関する事業

・国際マンガ研究センターの組織変更、活動報告

京都国際マンガミュージアムの下部組織であった国際マンガ研究センターを、大学の教育研究活動との連携をさらに高めるため、大学直轄の研究執行機関へと組織変更を行った。

センターの 2011 年度の主な活動として、韓国富川大学と韓国漫画映像振興院を会場に、第 3 回国際学術会議「マンガの社会性 - 経済主義を超えて -」（主催：京都精華大学国際マンガ研究センター、韓国漫画映像振興院）を開催し、その他にも研究会や展示・講演会・ワークショップ等の企画立案および運営を行い、本学の研究活動を広く社会に発信した。

・全学研究センターの活動

2011 年度は全学研究センターとして以下の事業を行った。

ア. 共同研究の推進

全学研究センターの企画である企画研究プロジェクトとして、「大学におけるマンガ教育手法の体系化に関する研究（研究代表者：小泉真理子）」を 2010 年度に引き続いて研究支援を行った。公募研究プロジェクトとして、2011 年度は「究極の印字書体の研究（研究代表者：高橋亨）」の 1 件を採択し、2010 年度採択の継続プロジェクト 2 件と併せた計 3 件の研究支援を行った。

イ. 学部研究資金獲得の推進

文部科学省および日本学術振興会による科学研究費補助金等の学外研究資金に関して、学内教職員等に公募情報の提供を行い申請支援を行った。

ウ. 『京都精華大学紀要』の発行

研究成果公開の場である京都精華大学紀要の 39、40 号の計 2 冊を発行し、国内の各大学へ配布すると共に、大学ウェブサイトにて電子データの公開を行った。

エ. 出版活動の推進

研究成果公開を促進するための出版助成金制度について、7 件の申請に対して審査の結果、4 件の助成を行った。また 2010 年度に出版助成を行った『トポグラフィの日本近代（著者：佐藤守弘）』が、2011 年度文化庁芸術選奨新人賞に選ばれた。

3. 志願者確保に関する事業

・学生募集活動の強化

ア. 高校訪問体制の強化

多くの高校 3 年生が進学校を決定する 5 月から 6 月にかけて、全国の高等学校の進路指導部へ一斉に訪問するため、入試課以外の教職員にも応援を求め、大学の教職員全体での訪問活動を実

施した。

イ. 受験生との接触機会の強化

本学への出願を決定する大きな契機となっているキャンパス開催の募集イベントを強化する目的で、本学施設の大きな特長でもある工房の体験会を「セイカゼミナール」という名称にて、2回開催した。各回ともおよそ100名の生徒が参加して、簡単な作品制作を通じて、専門性の高い工房施設や設備機器を使用することで、実習室での実技教育の一端に触れる機会ともなった。

ウ. 進学先の早期決定傾向への対応

進学先を早期に決定する傾向が顕著であることから、入学資格判定（入学試験）の時期を夏から秋にかけての時期に移行すると同時に、資格判定内容を授業体験型や自己プレゼンテーション型とすると同時に、面接を並行して実施するなど、早期化に伴う改善を実施した。これと同時に、夏から秋にかけてのAO入試の募集枠を拡充する措置をとった。

エ. 高大連携の推進

本学の教学連携校である京都精華女子高等学校の2年生へ向けて、人文学部教員を講師とした高校内での授業を実施した。この高大連携授業は、授業の内容の企画だけではなく、運営や成績付与に関しても、本学教員と高校教員の合議にて運用された。授業内容は、生徒の自己プレゼンテーション能力の開発を支援するものであり、自らテーマを設定し、資料を調べ、プレゼンを組み立てていく授業に対し、生徒の関心は非常に高い。

・新学部等の広報準備

ポピュラーカルチャー学部等の募集広報については、12月のプレスリリースを起点として、受験媒体等への出稿を行った。但し、文部科学省への届出との関係より、具体的内容（教員体制やカリキュラム、施設設備など）の広報については、次年度の届出以降に開始となるため、実質的にはその準備を行った。

・留学生の入学支援体制の強化（日本語学校との連携強化）

私費留学生の入学前の日本語学習を支援する環境を整備するために、京都日本語学校と教育連携に関する提携を締結し、日本語学校に所属しながら、本学の教学内容を体験するプログラムの開発を行った。

4. 財務等に関する事業

・教育研究事業等に関する助成金・補助金の獲得

教学活動に関する補助金の獲得については、年間を通じて取り組むと同時に、経常費補助金の配分率の変更が行われ、一般補助への配分強化に移行した結果、本学の経常費補助全体の増額に結びつき、全国560の私立大学中、金額順位で115位となる結果を得た。

・基本金組入計画の実施

当初計画通り、1億円の組入れを実施した。

- ・収益事業計画の策定と実施

京都国際マンガミュージアムにおいては、震災と原発事故の影響から、京都市全体の観光者数が減少した影響を受け、開館以来初めて来館者数が減少した。このような環境下にて収益性を高めるため、入館料金の値上、レストランの拡張、売店の直営化を実施した。売店における物販は売上増となり大幅増収の結果を得たが、レストランは開店が大幅に遅延した結果、当初計画よりも大幅な減収となった。但し、2012（平成24）年1月以降は入館者数が回復の傾向にある。

5. キャリア支援に関する事業

- ・キャリアデザインセンターの設置

学生の多様なキャリア形成を包括的に支援するため、学部、教学支援、キャリア支援、社会連携などの担当部署による全学的ハブ組織として「キャリアデザインセンター」を設置した。具体的な活動内容として、キャリアデザインセンター専門の実務家教員を雇用し、「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」「クリエイティブの現場」等の学部共通のキャリア教育科目の開設や企業等との産学連携共同プロジェクトの実施、また起業志望者向けのガイダンスや講演会など、多角的なキャリア支援活動を実施した。

- ・就業力育成支援事業の推進

2010年度に文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択された「職業的実践力を有する表現者育成プログラム」補助金事業にて、以下の事項の推進を行った。

- ア. 新たに設置したキャリアデザインセンターに、社会で活躍する実務家教員を雇用し、社会の現場と教育課程を結びつける実践的なキャリア支援を行った。
- イ. 産学連携事業の拠点である学外サテライトスペース kara-S（カラス）では、企業等との産学連携活動や大学授業の成果発表の場として運営を行った。
- ウ. クリエイティブ領域に関する正規カリキュラムの充実と運営を行った。
- エ. 全学部1年生を対象に学習や制作作品等をデータ蓄積し、自己学習や企業へのプレゼンテーション等に活用するためのラーニングポートフォリオシステムの導入を行った。

- ・SEIKA CREATORS BOARD（卒業生のための仕事受注サイト）の運営

2010年度に構築を行った、本学を卒業後にフリーランスや自立した活動を行うクリエイターと、クリエイティブ領域での仕事依頼先を求める企業を繋ぐことを目的とした「SEIKA CREATORS BOARD（セイカクリエイターズボード）」のテスト公開および本運営を開始した。

6. 地域と社会における連携と貢献に関する事業

- ・社会連携教育事業

社会連携事業の窓口である社会連携センターでは、本学が培ってきた文化・芸術教育活動と社会を結び、教育研究活動の向上と創造的資源の活用を目指して、2011年度から「クリエイティブ・

コラボレーション」の名称で運営体制整備を行っている。企業や自治体からの依頼案件に対し、実際の授業内で取り組む「カリキュラム導入型」、課外で取り組む「プロジェクト型」に分類して対応している。

カリキュラム導入型では、芸術学部テキスタイルコースが京都マルイ（百貨店）と「ゆかたプロジェクト」を行った。学生が授業内でオリジナル浴衣を布から制作し、京都マルイの店内と学外サテライトスペース kara-S ギャラリーにて展示された。また、プロジェクト型では株式会社カヤックが運営するアート作品のオンライン販売サイト「ART-Meter」とのコラボレーションプロジェクトが行われ、本学の卒業制作展と連動してリアルとデジタルを組み合わせた新しいアートプロモーションの企画・運営を行った。その他、アプリケーションのプロモーション動画制作、ファッションビルの主宰するプロジェクトの企画・作品出品協力等のさまざまなプロジェクトを行った。

・他大学との連携事業の推進

ア. 京都大学との連携事業

昨年度に引き続き、京都大学大学院医学研究科との共同プロジェクトを行った。この取り組みは京都大学医学研究科人間健康科学リハビリテーション科学コースの研究グループが開発した高齢者の転倒予防研究を広く社会に広めることを目的とし、エクササイズマットのデザインを行った。制作したマットは発売される予定。また、同じく前年度から継続している「宇宙とアート」プロジェクトの一環で、京都大学のサイエンスカフェで使用する紙製ランチョンマットのイラストとデザインをデザイン学部の学生が制作した。

イ. 北仲スクールでのプログラム

北仲スクールは、2009年度に文部科学省「大学教育のための戦略的大学連携推進プログラム」に採択され、本学を含めた7大学の共同事業「横浜文化創造都市スクールを核とした都市デザイン／都市文化の担い手事業」において2010年4月に開校し、2年目を迎えた。本年度は、2011年9月に本学教員が担当する都市文化創成基礎科目群の夏期集中科目「アーバンポップ論C」にて本学学生30名が横浜に滞在し、受講しながら他大学生と交流を図った。また、10月にはシンポジウム「都市のなかのミュージアム、アート、そして大学——石巻、京都、横浜」を佐藤守弘氏（デザイン学部）をコーディネーター・司会で開催した。2012年2月には国際共同制作学生映像作品上映／講演会「Japan～Russia～Somewhere」を開催。2011年11月にロシアにて開催されたイベント「J-Fest 現代日本文化フェスティバル」で制作、上映された映像作品の上映会と、制作背景などに関する講演を教員・学生らが行った。

・自治体等との連携事業について

芸術活動における地域活性化の取組みとして、上賀茂神社と上賀茂自治連合会との共同プロジェクトにより「上賀茂神社アートプロジェクト」を開催した。世界遺産である上賀茂神社の境内や、周辺を会場にして参加学生による立体作品や絵画、映像作品の展示を行ない、会期中には親子を対象としたワークショップを同時開催し、地域社会との交流を図った。

・公開講座、講演会について

ア. アセンブリーアワー講演会、公開講座ガーデンの開催

開学以来継続しているアセンブリーアワー講演会においては、小説家のいしいしんじ氏、メ

ディアジャーナリストの津田大介氏、ブックデザイナーの祖父江慎氏、哲学者の佐々木中氏等、各界の第一線で活躍する講師をゲストに迎え、全10回開催し、学内外から約2100名の参加があった。

また公開講座ガーデンでは紙漉き、写真現像、版画制作、Tシャツリメイクといったものづくりを体験するワークショップのほか、小学生にもものづくりの楽しさを伝える「こども楽々塾」等、全20講座を開講し、約230名が参加した。

イ. 岡本清一記念講座の開催

初代学長岡本清一の自由の思想を岡本清一記念講座において連続シンポジウム「戦後思想を問い直す視座～柴谷篤弘と中原祐介の仕事～」を開催した。2011年12月23日に「柴谷篤弘の業績をたどる記念シンポジウム：われわれにとって柴谷篤弘とは何か ― 現代科学と社会の批判の実践」、2012年1月21日に「中原祐介の業績をたどる記念シンポジウム：批評の技法（アート）― 現代美術の実践とことば」を開催し、合わせて約150名が参加した。

・学外施設の活用について

京都国際マンガミュージアムでは、特別展として「ベルサイユのばら」展、「仮面ライダーアートギャラリー」展、「赤塚不二夫マンガ大学」展の3本の展覧会のほか、「KYOTO CMEX」、「文化庁メディア芸術祭」といった17本の展覧会を開催した。

その他にも「マンガ学部卒業・修了制作展」や、講演会・シンポジウム・その他ワークショップ等多数のイベントを開催した。

また、四条烏丸の学外サテライトスペース「kara-S（カラス）」では、関西の美大生団体「SHAKEART!」のオープニングイベントや「デディケイト トゥ シュバンクマイエル」展など、さまざまなクリエイティブの分野で企業や団体とのコラボレーションを行う創造の場として活用された。また授業と連動した展覧会や公開講評会なども多数開催された。

7. 組織および運営に関する事業

・中長期人事計画の策定

職員人員数は、既に立案した中期的な人事計画通りに進行した結果、退職金引当金の繰入額の算定基準が増額する等の増額要素があったにも関わらず、人件費総体の減額となった。

・定年齢の改定

定年齢の引き下げ計画を策定すると同時に、財務的観点に基づく専任教員数基準に関する資料を作成し、学内での数回の説明会を開催することで、教職員への十分な説明と意見の収集に努めた。

・京都国際マンガミュージアムの体制再編

ミュージアムの自立的運営を促進する目的で、組織全体の見直しを行うと同時に、研究部門である国際マンガ研究センターを大学組織である学長室学術振興課へ配置した。同センターは、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業への補助金の支援を受け、各種研究活動を展開している。

8. 施設および設備に関する事業

・ 教学再編による施設計画策定

2013年度に向けた教学再編に関する施設計画の検討および策定を行った。

新たに開設するポピュラーカルチャー学部に関しては、教育課程から新校舎の計画検討と策定を行った。またデザイン学部イラスト学科の新設、マンガ学部の再編および新コース新設における教学再編と収容定員変更に伴い、既存施設の変更計画を検討し策定した。

3. 財務の概要

2011年度の決算の概要は、次の通りです。

*金額は、原則として百万円単位で記載しています。

*増減額及び増減比は、前年度との比較を示しています。

(1) 資金収支について

前年度から繰り越した支払資金（現金・預金）は、4,563,205,898円でした。当年度の支払資金収入総額は、学生納付金、補助金などの収入の他、次年度学費の前受金、未収入金・貸付金の回収などを含んで、7,197,644,851円でした。その結果、収入の部の合計は、11,760,850,749円となりました。

一方、当年度の支払資金支出総額は、人件費・経費、借入金利息・返済支出、施設・設備関係支出、有価証券の購入支出など7,407,439,600円でした。

以上の結果、次年度繰越支払資金（期末現金・預金有高）は、4,353,411,149円となり、支払資金は、209,794,749円減少したことになります。

(2) 消費収支について

帰属収入合計は、前年度から367百万円減少し、前年度比94.8%の6,706百万円でした。

増加した収入は、**資産運用収入**のみで、5百万円増の92百万円（106.1%）でした。これは、有価証券利息・配当金の増加によるものです。

一方、減少したものは、次の通りです。

学生納付金は、学生数の減少に伴い（大学院を含む全体で178名減）、240百万円減の5,536百万円（95.9%）となりました。

入学検定料収入がそのほとんどを占める**手数料収入**は、2百万円の減少で、53百万円（96.6%）となりました。

寄付金は、特別寄付および現物寄付がともに減少し、8百万円の減収で、31百万円（79.4%）となりました。

補助金は、21百万円減少し、649百万円（96.8%）となりました。但し、このうち、私立大学等経常費補助金は、599百万円（102.0%）で、12百万円増加しました。内訳は、一般補助が536百万円（121.7%）、特別補助が63百万円（42.9%）です。当年度は、従来の一般補助と特別補助の枠組みが抜本的に組みかえられたため、一般補助が増額、特別補助が減額されるとともに、本学においては、全体の受給額が増額される結果となりました。私立大学等経常費補助金の受給額は、全国の補助金受給560大学（短期大学を除く）の中で、115番目でした。

資産売却差額は、満期償還を迎えた有価証券の売却差益として64万円（6.3%）を計上しました。前年度は、特定の銘柄を途中売却したことなどで10百万円の差益が生じましたが、当年度は、そのような売却がありませんでした。

事業収入は、全体で17百万円減少し、232百万円（93.1%）となりました。主な内訳として、京都国際マンガミュージアム（以下、MM）の入場料収入は、10百万円減の84百万円となりました。一方、2011年8月からMMのレストランを大学直営に切り替えたことなどにより、

売店販売収入が4百万円増の47百万円となりました。その他、受託事業収入は、MM事業推進室の売上が前年を下回ったことなどで6百万円減の79百万円となりました。また、補助活動収入は、学内講座の受講者数が減少したことなどにより、4百万円減の17百万円となりました。

雑収入は、74百万円減少し、112百万円(60.0%)となりました。これは、退職教職員数が前年度よりも少なかったことにより、私立大学退職金財団からの退職資金交付金が減少したことなどによるものです。

消費支出は、前年度から638百万円減少し、前年度比90.7%、6,200百万円となりました。

人件費は、503百万円減少し、3,278百万円(86.7%)となりました。前年度は、会計方針の変更により、退職給与引当金繰入額が一時的に増加し、また、それ以外の人件費も例年に増して高額となっていました。当年度は大幅な減少となっています。退職給与引当金繰入額を除くと、当年度は前年度に比して、90百万円の減少です。主には、職員に係る人事計画の見直しにより、退職した嘱託職員の後任採用を最小限に留めていることが影響しています。なお、人件費比率(人件費/帰属収入)は、48.9%でした。

教育研究経費は、129百万円減の2,077百万円(94.2%)となりました。

管理経費は、24百万円減の711百万円(96.8%)となりました。

借入金利息は、8百万円減少し、64百万円(89.5%)となりました。

資産処分差額については、保有有価証券の減損処理などにより、前年度より22百万円増加し、55百万(167.8%)となりました。

未収入金などの**徴収不能額**(学費滞納者の除籍・退学などによる)は、3百万円増加して14百万円(122.9%)となりました。

帰属収入と消費支出の差額(**帰属収支差額**)は、前年度の235百万円から506百万円となりました。帰属収支差額比率(「帰属収入」に対する「帰属収支差額」の比率)は、前年度よりも若干回復し、7.5%です。但し、当年度は、支出抑制が図られたことにより消費支出が前年度よりも大幅に減少したことで復調傾向となりましたが、帰属収入が増加しない限り、根本的な収支改善とはなりません。今後も、帰属収入が減少傾向にある現状を真摯に受け止め、志願者の確保を始めとして、更なる改善に努めていくことが求められます。

基本金組入額は、87百万円減の167百万円(65.6%)となりました。

当年度は、前年度にも増して多額を要する資産の取得が減少し、さらに過年度に取得済みの機器備品などの除却が増えたため、通常**第1号基本金**組入額が67百万円(42.9%)となりました。また、前年度より開始した新校舎建築のための**第2号基本金**組入も行いました。当年度の組入額は、100百万円です。なお、**第4号基本金**(会計基準に定められている運転資金の確保のための基本金)組入は、ありませんでした。

以上の結果、**消費収入の部合計額**は、前年度に比べ280百万円減少し、6,539百万円(95.9%)でした。単年度の**消費収支**は、339百万円の収入超過となりました。

(3) 貸借対照表について

固定資産は、464百万円増加し、24,534百万円(101.9%)となりました。有形固定資産は、建物の減価償却などにより651百万円減少しました。その他の固定資産は、有価証券の買い増しなどにより1,115百万円増加しました。**流動資産**は、206百万円減少し、4,611百万円(95.7%)となりました。これらの結果、**総資産額**は、258百万円増加し、29,145百万円(100.9%)となりました。**総負債**は、248百万円減少し、5,602百万円(95.8%)となりました。**固定負債**は、長期借入金の減少などにより236百万円減少し、3,589百万円(93.8%)です。**流動負債**は、11百万円の減少で、2,013百万円(99.4%)となりました。**自己資金**は、506百万円(帰属収支差額に同じ)増加し、23,543百万円(102.2%)となりました。

自己資金比率は、1.1%増加し、80.8%となりました。**総負債率**は、19.2%ということになります。